

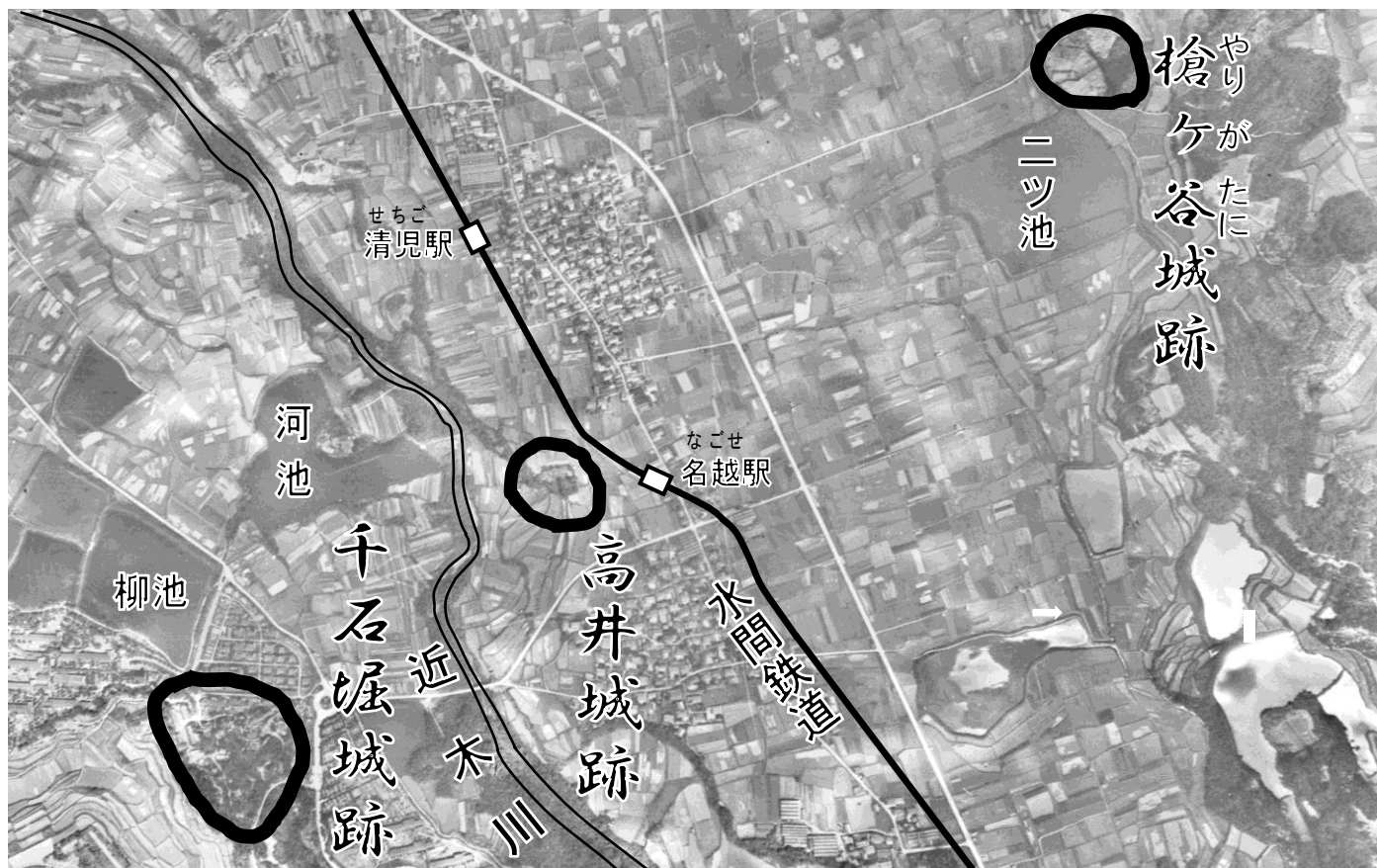
テンパス

TEMPUS

2021年(令和3年)

75号

近木川をはさんで築かれた二つの城—千石堀城と高井城—



千石堀城跡(右図⑥)と高井城跡(右図⑤)、二つの城を攻めた羽柴(豊臣)秀吉が陣をおいた槍ヶ谷城跡(貝塚市域部分)の配置(国土地理院航空写真、昭和21(1946)年撮影より)

も く じ

近木川をはさんで築かれた二つの城—千石堀城と高井城—
姉妹都市カルバーシティ市と貝塚

—貝塚市歴史展示館の展示資料から④—

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その4

「貝塚の民話」絵本原画展2021 開催中!

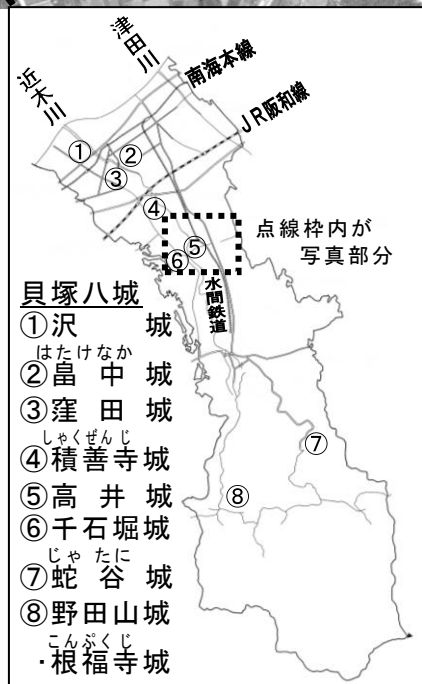
／小学校巡回展示「貝塚の古墳」

古文書講座—市内に残る身近な古文書—

／国の天然記念物 和泉葛城山ブナ林を守るために

ナラ枯れ対策で、薬剤の樹幹注入などを行いました

文化財講座・セミナー・展示



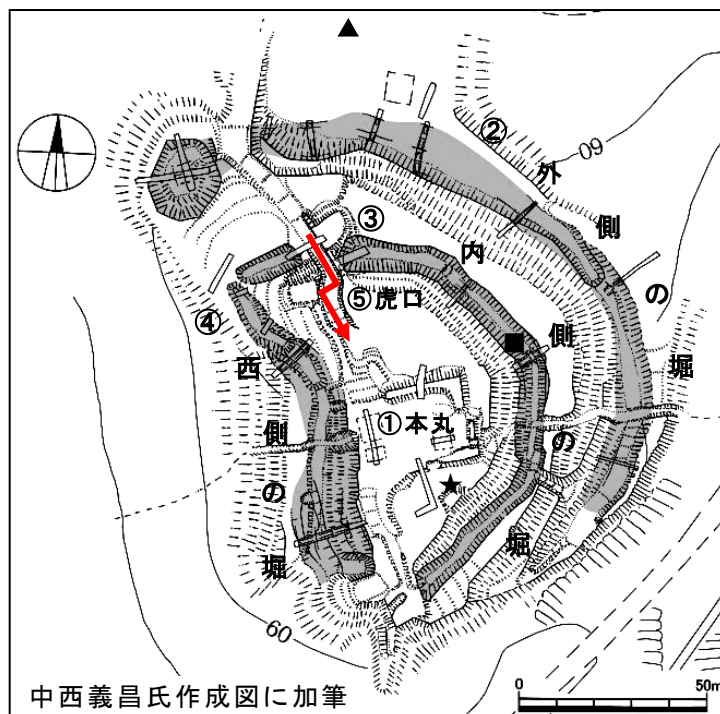
近木川をはさんで築かれた二つの城—千石堀城と高井城—

本市内には南北朝時代から戦国時代にかけて10を超える城が築されました。古文書に記され絵図に描かれた在りし日の城の姿は、近年の発掘調査によって解明が進んでいます。

貝塚市郷土資料展示室では、令和3年11月13日（土）から12月19日（日）にかけて、企画展「貝塚八城めぐり—守護代・根来寺・雑賀衆・百姓の城—」を開催いたします。本号では、今回の企画展に先駆けて、これまでの発掘調査の成果や城跡で採取された考古資料をもとに、本市を流れる近木川沿いに築かれ、天正13（1585）年3月に行われた羽柴（豊臣）秀吉の紀州攻めで落城した二つの城、千石堀城と高井城について紹介します。紀州攻めにおいて、二つの城に籠城した人々は、槍ヶ谷城（貝塚市清見・岸和田市流木町）と落合城（岸和田市流木町）に本陣を構えた秀吉の軍勢と戦いましたが、両城とも一日で落城しました。

根来寺の城 千石堀城（現在の名越・橋本、せんごくの杜（もり）周辺の丘陵）

千石堀城は、室町時代末期に紀伊国根来寺の城として築かれた山城です。本市教育委員会では、平成25年度から、江戸時代に描かれた絵図や城郭研究者が作成した縄張り図をもとに、城跡「千石堀城跡」の遺跡範囲内外で年に数カ所の調査区を設けた発掘調査を重ねてきました。下図は、過去のテンプス（53号・56号・65号・71号）の記事を含め、これまでの調査成果をまとめたものです。本丸部分（下図①）は後世の開発のため遺構は確認できませんでしたが、東側には二重の堀（下図②外側の堀、下図③内側の堀）、西側には一重の堀（下図④）がめぐり、虎口（こぐち、下図⑤）と呼ばれる城の入口は、「食い違い虎口」という敵の侵入の勢いを抑えるための構造が採用されていることが分かってきました。



①天文7（1538）年銘の石造物の一部



②焼けた痕跡のある石



③軒平瓦

また、城跡の北側（上図の▲地点）には中世の墓石である一石五輪塔や、天文7（1538）年の年号が刻まれた石造物の一部（写真①）、反花座（かえりばなざ）と呼ばれる石造物の基礎石が置かれている場所があります。発掘調査では、これらの石造物と同時期と考えられる反花座の他、建物の基礎石、焼けた痕跡のある石（上図の■地点から出土、写真②）が堀の中から出土しています。また、平安時代後期から中世にかけての瓦（上図の★地点な

どから出土、写真©) や水甕（みずがめ）と考えられる土器の破片が、堀の中やその周辺の調査から出土しています。これらのことから、千石堀城が築かれる以前には寺院的な施設があり、そこに根来寺の勢力が地元の民衆らとともに手を加え、城を築いたと推定されます。当時の文献などによると、紀州攻めの戦いで城は火を受けて落城したとされていますが、焼けた痕跡のある石は落城の時のものかどうか、定かではありません。

百姓の城 高井城（現在の名越、水間鉄道名越駅西方の微高地）

高井城は、千石堀城と一対になる城として近木川の対岸に築かれた平城です。城跡「高井天神廃寺・高井城跡」の遺跡範囲からは、過去に軒瓦や水煙（すいえん・仏塔の上につける火炎状の飾り）の破片などが出土したことから、城が築かれる以前には「高井天神廃寺」という寺院があったと推定されています。城跡周辺で採取された個人所蔵の瓦を調査したところ、文様の異なる4種類の軒丸瓦6点と3種類の軒平瓦3点、平瓦1点が確認できました。いずれも鎌倉時代以降と考えられる瓦で、中でも、三鈷杵文（さんこしょもん）軒丸瓦、独鈷杵文（どっこしょもん）軒平瓦は、密教で使用する法具が瓦の文様に用いられていることから、高井天神廃寺は密教寺院であったと考えられます。高井城は、この寺院の境内地を含む一帯に地元の民衆らが手を加えて築いた城と推定されます。秀吉の紀州攻めの後、城跡には高井天神社（菅原神社）がまつられていましたが、明治41（1908）年に森の稻荷神社に合祀され、昭和50（1975）年頃から城跡の周辺は大規模な宅地造成によって景観が大きく変わり、現在は公園として一部が残されているだけとなっています。



三鈷杵文軒丸瓦
（摂河泉文庫所蔵）



独鈷杵文軒平瓦
（個人所蔵）



高井城跡周辺の変化

表紙の航空写真では、田畑が広がっていましたが、左の平成19（2007）年の航空写真では、水間鉄道が開発した清名台（せいなだい）を含む戸建住宅に変化したことが確認できます。

貝塚市郷土資料展示室企画展「貝塚八城めぐりー守護代・根来寺・雑賀衆・百姓の城ー」

発掘調査で出土した考古資料を中心に、江戸時代の絵図、文献資料などを通じて、市内に築かれていた、沢城、畠中城、窪田城、積善寺城、高井城、千石堀城、蛇谷城、野田山城・根福寺城の8つの中世の城郭を紹介します。

会 期 令和3年11月13日（土）～12月19日（日）
会 場 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）
観 覧 料 無料
休 室 日 毎火曜日、11月24日（水）、12月1日（水）

第122回かいつか歴史文化セミナー

講演会「千石堀城跡と和泉国の城館跡調査」

市内に残る千石堀城跡と泉州地域の城館跡についてお話しいたします。

日 時 令和3年11月14日（日） 午後1時30分～3時30分
会 場 貝塚市民図書館2階視聴覚室
講 師 福島 克彦 さん（城郭談話会会員）
受 付 10月15日（金）午前9時より開始



< 申込先は4頁に >

姉妹都市カルバーシティ市と貝塚

ー貝塚市歴史展示館の展示資料から④ー

昭和40(1965)年4月29日に貝塚市とアメリカ合衆国カリフォルニア州のカルバーシティ市との間で姉妹都市提携が調印されてから、令和3年で56周年を迎えました。

この姉妹都市提携は、「東洋の魔女」として知られるニチボー貝塚女子バレーボールチームの活躍が始まりであることから、半田にある貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）では、姉妹都市カルバーシティ市を紹介する展示コーナーを設置しています。

この展示コーナーの目玉資料が、本市がカルバーシティ市に寄贈した「**日本庭園**」の模型（右写真）です。日本庭園は、昭和49（1974）年、本市が5名の庭園師を派遣して、カルバー・シティ・ジュリアン・ディクソン図書館前に築造したものです。模型は、ライオンが吠えるオープニングロゴで有名な映画会社MGM（メトロ・ゴールドウィン・メイヤー）の小道具係の手により6カ月の期間を費やし完成されたものです。



「日本庭園」の模型（部分）

また、令和3年6月1日より、姉妹都市提携56周年記念のオンラインミーティング（5月28日に開催）を記念して贈られた**記念盾**を展示しています。この盾は、写真家と木工細工担当の2名による合作で、映画フィルムの形をしたオブジェの写真をメインにしたものです。

いずれも、ハリウッドに近く映画産業が盛んなカルバーシティ市ならではの資料です。ぜひ、貝塚市歴史展示館にご来館ください。

第123回かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「天正13年貝塚の戦争ー三つの城跡を見に行こうー」

郷土資料展示室企画展を見学後、槍ヶ谷城跡、高井城跡、千石堀城跡をめぐるります。

日 時 令和3年12月11日（土） 午後1時～4時30分 *雨天実施

集合場所 貝塚市民図書館2階視聴覚室 解散場所 水間鉄道名越駅

※途中、貝塚市役所前駅から清見駅まで水間鉄道を利用します。運賃は各自でご負担ください。

講 師 白石 博則 さん（和歌山城郭調査研究会代表）、社会教育課学芸員

受 付 **11月15日(月)午前9時より開始**

◎第122回（3頁）と上記のセミナーは、募集人員30人（先着順）で、参加費は無料（運賃を除く）です。

申 込 住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）

社会教育課郷土資料室 TEL 072(433)7205 / FAX 072(433)7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その4

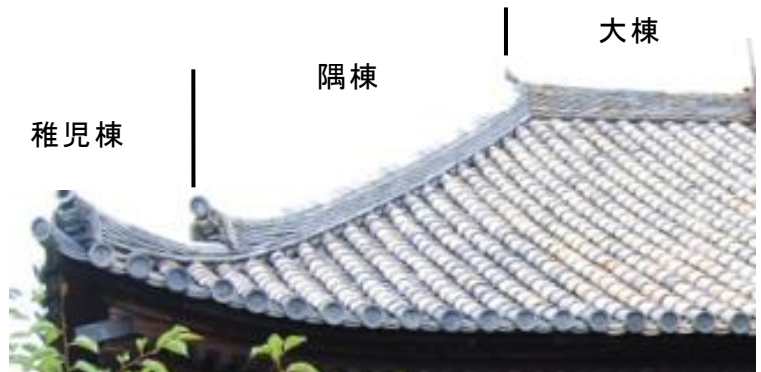
木積（こつみ）にある孝恩寺では、本堂である国宝孝恩寺観音堂（通称 釘無堂（くぎなしどう））の保存修理工事が進められています。本号では、令和3年7月に終了した瓦の葺き替え工事について紹介します。

棟瓦の設置

平瓦、丸瓦などの瓦を葺いた後は、屋根の棟（むね）の部分に瓦を設置してきました。

棟は場所によってそれぞれ名称があり、屋根最上部の大棟（おおむね）、大棟から屋根の四隅に降る隅棟（すみむね）、軒の先端部分の短い棟は稚児棟（ちごむね）と呼ばれています。

棟の部分は、右写真のように、熨斗（のし）瓦と呼ばれる平瓦を加工したものを何層も積み重ねて南蛮漆喰（なんばんじっくい）で固定していきます。下層の熨斗瓦は幅広で、上層に積み重ねるものは少し幅が狭いものを積み上げ、その断面は台形になります。棟の上は、への字のような形をした雁振（がんぶり）瓦を設置して雨漏りを防ぎます。



棟の名称

雁振瓦

熨斗瓦



棟瓦の設置状況

鬼瓦の設置

鬼瓦は、稚児棟の先端部分（軒先）と、軒のやや上部分に位置する隅棟の先端の2カ所、それが四隅合わせて8カ所に設置されました。鬼瓦上には、鬼瓦裏からの雨水侵入を防止するための鳥衾（とりぶすま）瓦が設置されました。南西の稚児棟は破損しており、折れていた鬼の角（白点線部分）や鳥衾瓦の瓦頭の欠損部（白点線部分）



破損した鬼瓦と鳥衾瓦



補修された鬼瓦と取り替えられた鳥衾瓦

を作成し、補修可能な部分を修理した上で設置しなおされています。

次号のテンプスでは、壁や床板、建具の工事の他、保存修理事業で明らかになったことを紹介する予定にしています。

「貝塚の民話」絵本原画展2021 開催中！

貝塚市郷土資料展示室では、令和3年10月31日（日）までの期間、「貝塚の民話」絵本原画展2021を開催しています。

本展では、大阪府立貝塚高等学校の総合学科の3年生が本市教育委員会の依頼で制作した絵本原画および切り絵作品の紹介を中心とした展示を行っています。今回展示しているのは今年度に制作された作品で、題材は「雨乞いの神様」、「牛神さまの平石」、「お夏清十郎物語」、「岸の姫松」、「津田川のみい（蛇）さん」、「天女の櫛」、「八品の道具」の7つの民話です。

ぜひ、この機会に「貝塚の民話」の世界をご体験ください。

会 期 開催中～令和3年10月31日（日）

会 場 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

観覧料 無料

休室日 毎火曜日

※令和3年11月5日（金）から12月23日（木）にかけて、南海本線貝塚駅改札口向かいのまちの駅かいつか（貝塚市観光案内所）でも、週替わりで各作品を紹介します。



「お夏清十郎物語」の絵本原画より



小学校巡回展示「貝塚の古墳」

令和3年5月21日から9月17日にかけて、昨年度の「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」に引き続き、今年度も市内11小学校で巡回展示「貝塚の古墳」を開催しました。

2年前に巡回したテーマでしたが、貝塚市にある唯一の前方後円墳、丸山古墳を含む地蔵堂古墳群にスポットを当て、写真パネルや地図、発掘調査で見つかった埴輪（はにわ）や須恵器（すえき）などを展示しました。

昭和56（1981）年に始まった南小学校の校舎、体育館増築に伴う発掘調査では、



須恵器をのぞき込む子どもたち

円墳（えんぷん）4基、方墳（ほうふん）2基からなる地蔵堂古墳群が確認され、たくさんの遺物が発見されています。子どもたちは「南小学校の校舎の下に古墳があった」と聞いて、驚きとともに強い興味を持って、食い入るように展示を見てくれました。今後も引き続き、小学校において地元の歴史を身近に感じられる内容を紹介していきます。

古文書講座

ー市内に残る身近な古文書ー

◆ぼっかんさん紀の路を行く 3

府の社会教育施設の休館対応に合わせた市民図書館休館を受け、予定していた当初の開催日程を3週間遅らせての開催となりました。なお、今回も引き続き新型コロナウイルス感染対策として、令和3年6月23日、7月7日・14日・21日・28日の水曜日と、6月25日、7月2日・9日・16

日・30日の金曜日の2グループに分けて定員30名・5回の開催として、「ぼっかんさん紀の路を行く3」と題し、古文書講座を開催しました。

今回の講座では、貝塚寺内町の領主であった願泉寺ト半家（ぼくはんけ）一行の旅行記「紀の路御遊覧日記（きのじごゆうらんにつき）」（和歌山県立文書館所蔵）の本編の第3日目から第7日目まで、貝塚へ帰還するまでの道のりを読み進めていきました。

文政7（1824）年、旧暦9月25日、紀伊国岩出（岩出市）を出発した第10代ト半了真（りょうしん）ら一行は、一路紀三井寺・和歌浦（和歌山市）をめざしました。紀三井寺は今も多くの参詣客を集める地であり、和歌浦は風光明媚な場所として、古代から現代まで長く観光名所としての性格を備えています。日記には、かな文字が多く難解なものもありますが、道中で詠んだ俳句がふんだんに散りばめられており、その地その地の様子がまるで映像として蘇ってくるようです。

受講者の方からは「のどかな旅の風景を感じられました。家臣たちの教養の高さに驚いた次第です。」との感想が寄せられました。



講義に聞き入る受講者のみなさん

国の天然記念物 和泉葛城山ブナ林を守るために

ナラ枯れ対策で、薬剤の樹幹注入などを行いました



カシノナガキクイムシという昆虫が媒介する樹木の伝染病「ナラ枯れ」が全国的に広がっています。国天然記念物の和泉葛城山ブナ林に生育するコナラにも被害がみられたことから、天然記念物（コアゾーン）、周辺緩衝樹林帯（バッファゾーン）ともにカシノナガキクイムシによって持ち込まれた菌の増殖を阻止



薬剤注入の様子

するため、合計約120本のコナラなどに薬剤の樹幹注入を行いました。

なお、コアゾーンの薬剤注入にあたっては、文化庁、大阪府の許可を得て行いました。また、バッファゾーンでは、カシノナガキクイムシの羽化脱出を防止するための粘着シートも設置しました。

文化財講座・セミナー・展示

令和3年

◆10月

郷土 「貝塚の民話」絵本原画展2021〈～10月31日（日）〉

歴史 企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」〈～令和4年3月31日（木）〉

郷土 9月29日、10月6日・13日・20日・27日（水）13:15～15:45
古文書講座65 1班 「庄屋日記に見る農事暦と年中行事」

郷土 1日・8日・15日・22日・29日（金）13:15～15:45
古文書講座65 2班 「庄屋日記に見る農事暦と年中行事」

◆11月

まちの駅かいつか「貝塚の民話」絵本原画展〈11月5日（金）～12月23日（木）〉

郷土 企画展「貝塚八城めぐりー守護代・根来寺・雑賀衆・百姓の城ー」
〈11月13日（土）～12月19日（日）〉

郷土 14日（日）第122回かいつか歴史文化セミナー 講演会
「千石堀城跡と和泉国の城館跡調査」

◆12月

郷土 11日（土）第123回かいつか歴史文化セミナー 現地見学会
「天正13年貝塚の戦争ー三つの城跡を見に行こうー」

令和4年

◆1月

郷土 「貝塚市の指定文化財」展 第3期〈1月8日（土）～2月20日（日）〉

郷土 19日・26日、2月2日・9日・16日（水）13:15～15:45
古文書講座66 1班 「貝塚寺内と堺奉行所」

郷土 21日・28日、2月4日・18日・25日（金）13:15～15:45
古文書講座66 2班 「貝塚寺内と堺奉行所」

※郷土：郷土資料展示室・郷土資料室、歴史：歴史展示館



歴史展示館 企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」

令和4年3月31日(木)まで開催中！

新庁舎整備工事が進む市役所本庁舎をはじめとする公共施設の移り変わりを紹介します。



新庁舎イメージ図（令和4年5月供用開始）

〈会期中の休館日〉

毎火曜日、
11月3日（水）、11月24日（水）、
12月29日（水）～1月3日（月）、
1月10日（月）、2月11日（金）、
2月23日（水）、3月21日（月）

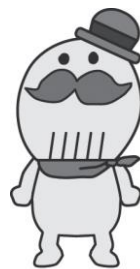
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期・変更・中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。



かいつか文化財だよりテンプス75号



令和3年10月1日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。